



地盤ネット株式会社

地盤安心住宅[®]

改良工事の見える化

設計審査補償

工事判定には第三者の立場から地盤改良工事の工法・金額・施工内容の妥当性をチェックし、安全と安心を守ります。

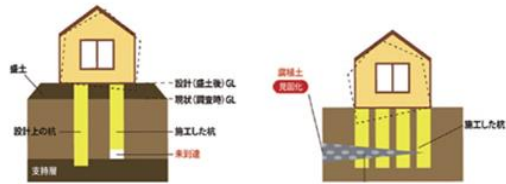
改良工事現場での重要な確認事項

- 現場に設計時のズレが出ていないか
- 現場での新たな問題点が出ていないか
- 設計通りの施工が行われているか
- 現場や作業員の安全対策は万全か
- 施工過程に問題はないか

見過ごすと...

改良体の先端が未到達の沈下事故ケース

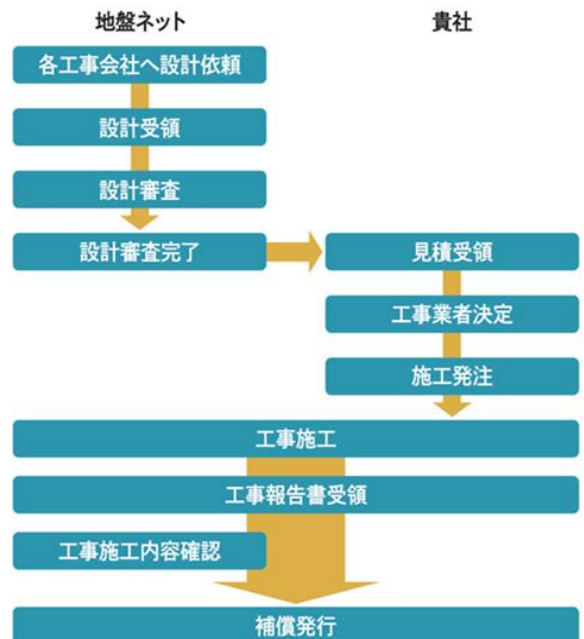
固化不良による沈下事故ケース



建築物のプラン等の変更により設計GLが上がったにもかかわらず、地盤調査時のまま施工したために、改良体の先端が支持層に達していないケース。

施工管理(目視)が行き届いておらず、腐植土層(有機質土)の対応をしていなかったため、その結果固化不良が発生したケース。

改良工事判定時のフロー



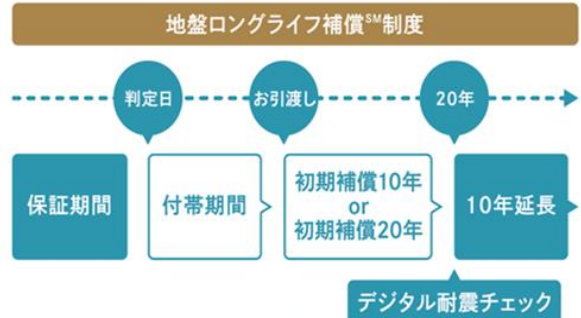
補償内容の見える化

地盤ロングライフ補償SM制度

初期補償として20年間・最高5,000万円まで対応。
定期点検を受けることで20年毎の補償更新が可能です。
※10年間も選択可能



地盤安心住宅[®]システムに申し込まれた対象物件について「地盤品質証明書」を発行します。万が一不同沈下が発生した場合には、20年間・最高5,000万円まで建物の損害等を賠償します。また更新時の地盤インスペクターRの検査では、最新の地盤リスクを把握できる「地盤スクリーニングレポート」が提供されるため、経年による地盤リスクの変化に対応することができます。



既存住宅地盤補償

地盤ネットによる品質証明が可能な地盤に対して、既存住宅「地盤ロングライフ補償SM」を提供します。初期補償として最高10年間・5,000万円まで対応。また、定期点検を受けることで生涯にわたり補償を更新し続けることができ(有償)、「デジタル耐震チェック」で最新の地盤リスクを把握することで、経年により変化する地盤リスクを定期的に見直すことができます。耐震、防災に対して最適な対策を講じることが可能です。

サービス対象	全ビルダーの既存条件 (有効期間満期を迎えたすべての地盤補償に対応します)
調査	デジタル耐震チェック
補償金額	最高5,000万円
補償期間	10年間

業界唯一の10年・20年一括補償



生涯にわたり補償更新が可能です

対象物件の修復費用 (1事故あたり) **最大5,000万円**

● 対象地盤の修復費用 (1事故あたり)	最大 2,000万円	● 事故現場保存費用 (応急仮設費用) (1事故あたり)	最大 500万円
● 物件所有者の仮住居・転移費用 (1事故あたり)	1ヶ月 100万円 ※最大2ヶ月	● 事故原因究明費用 (1事故あたり)	最大 30万円

既存住宅
地盤補償
リニューアル

改良工事を受注しない地盤ネットが、一貫して運営管理する「地盤安心住宅®」。全国で利用が広がっています。

「地盤安心住宅®」は、信頼性の高い地盤調査から始まり、関係法令、各指針や基準に基づいた高度地盤解析、安心の定期点検・補償を長期にわたり提供できる「地盤ロングライフ補償SM制度」に至るまで、一貫した運営管理を提供。過剰な改良工事を未然に防ぐとともに、検査・アフター・補償までの安心を実現します。

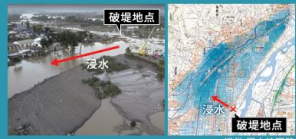
地盤情報の見える化

地盤安心マップ®PRO

地盤ビッグデータから、調査前の事前確認。地形や前歴、近隣データなどの多彩な情報から、調査地の地盤の安全性を確認します。

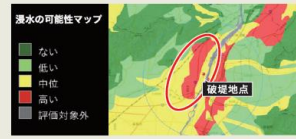
地盤を知り、備えることで3つの災害事故をゼロに!

「地盤安心マップ®PRO」は、被害予測や予防につながるさまざまな災害リスクを掲載しています。そのデータを実際の災害事例と重ねてみると、地盤の重要性を再認識する結果となりました。



令和元年台風第19号

各地で最多雨量を記録した豪雨により、千曲川が増水。長野市で過去最高水位を上回る12.46mに達し、自然堤防(洪水による土砂が堆積した土地)を破壊。水の溜まりやすい後背湿地に壊滅的な浸水被害が広がりました。



地盤安心マップ®PROで見ると...

「浸水の可能性マップ」の危険予測地域と、実際に被災した後背湿地がほぼ一致しています。



平成26年8月豪雨

広島県広島市安佐南区では、局地的豪雨により同時多発的に大規模な土石流が発生。急傾斜地にリッチする住宅地を襲い、甚大な災害が発生させました。



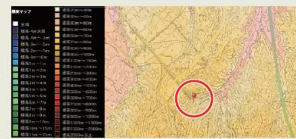
地盤安心マップ®PROで見ると...

「土砂災害危険区域マップ」では、崩壊や地すべりの危険性が予見されていました。



平成30年北海道胆振東部地震

札幌市清田区(震度5強)などでは、内陸部であるにもかかわらず、臨海部や河川敷で起きやすい液状化現象が発生。地区の3割超の建物や道路が被害を受けました。



地盤安心マップ®PROで見ると...

「日版地形図」や「標高マップ」から、被災地が谷埋め盛土で、液状化の危険性が高い土地であることがわかります。

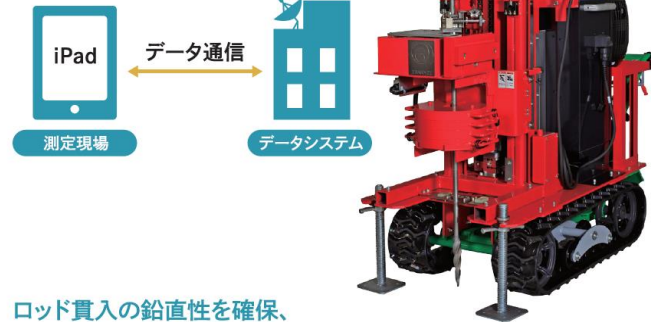
調査結果の見える化

地盤調査

手動式調査の利点である「おもりによる荷重方式」を採用し、JIS規格と原理的に整合性の高い調査を実現。調査精度と操作性の向上を両立させた「グラウンド・プロシリーズ」により、安心・安全の地盤調査を提供します。

完全クローズドシステム デジタル重機 — iGP —

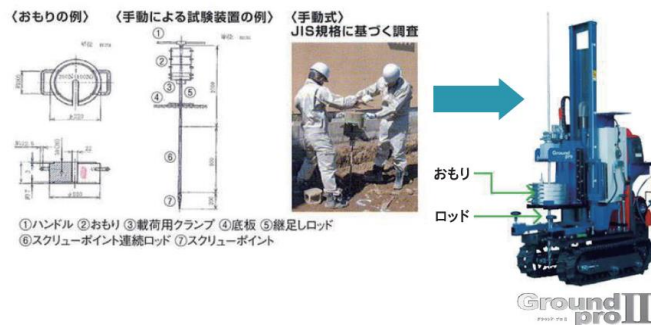
- 機械からデータシステムまで完全自社開発
- 現場で測定結果をデジタルデータ化、そのまま送信可能に
- 転記ミスや改ざんを根絶
- 情報漏洩対策も万全



ロッド貫入の鉛直性を確保、回転の自動化により調査結果の均質性が向上

ロッド貫入の鉛直性は調査結果の品質を確保するうえで重要です。「グラウンド・プロシリーズ」は、手動式では難しい鉛直性の確保が容易です。回転も自動化しており、均質な調査結果が得られることから、調査結果の信頼性が高い試験機となっています。

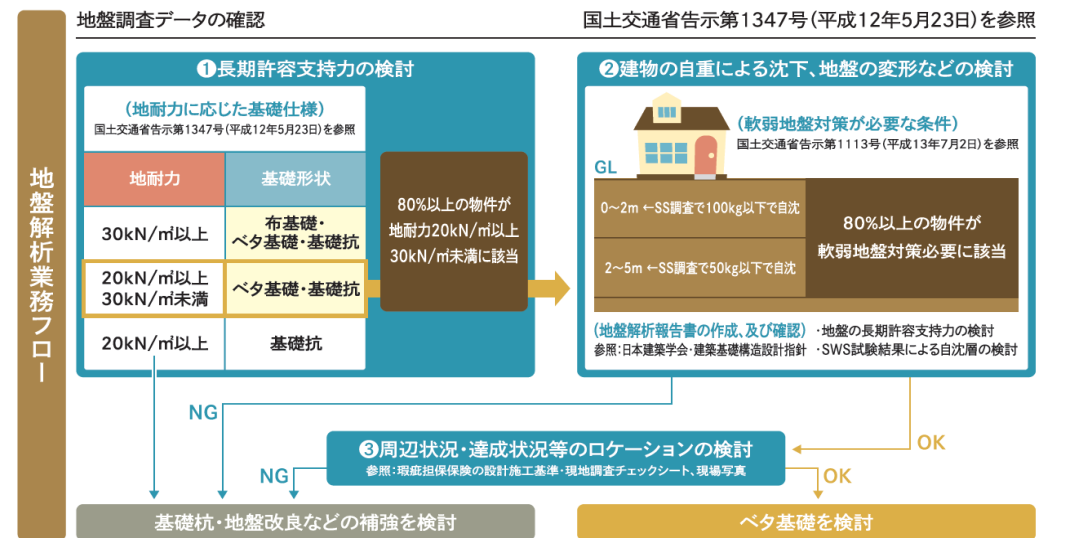
JIS企準準拠の地盤調査機「グラウンド・プロ」シリーズ



解析基準の見える化

高度解析

国土交通省告示をはじめとする関係法令を遵守した解析プロセス。日本建築学会が示す指針や瑕疵担保保険設計施工基準に基づいた高度解析によって、過剰な地盤改良工事を削減します。



対策提案



報告

法律で定められている検討内容の計算プロセスを開示。国交相告示1113号、小規模建築物基礎設計指針に準拠した、「支持力」「沈殿量」「不同沈下量」の計算に加え、造成の状況など現場のロケーションを検討し、ベタ基礎の安全性を考察。

